

# Hello! FUJISEI

No. 132

病気や不時の災害への備え、老後の生活資金、子どもの教育資金、住宅取得資金など、目的に応じて準備方法はさまざまです。

総務省の「家計調査年報」によると、平成23年平均の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1664万円で、前年比0.4%増でした。一方、年間収入は612万円で前年比0.6%減少し、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、前年に比べ2.9ポイント上昇し271.9%でした。このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合52.6%）では、貯蓄現在高は1233万円で、前年比0.9%の減少、年間収入は689万円で前年

## 老後資金の準備は早めに！

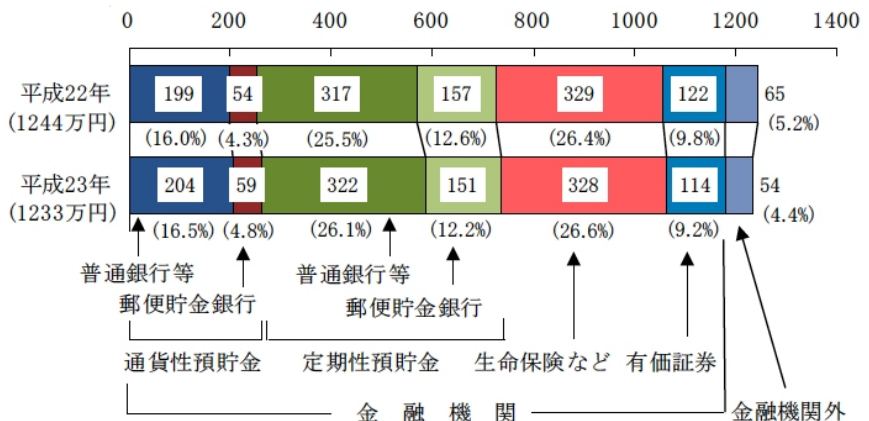
# 不安の反映か、収入減少しても貯蓄増加

比1.1%減少し、貯蓄年収比は、前年に比べ0.5ポイント上昇し179.0%でした。

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に貯蓄の種類別割合をみる

と、貯蓄現在高が少ない世帯ほど通貨性預貯金の割合が高く、貯蓄現在高が多い世帯ほどおおむね定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなる傾向がみられます。

貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

総務省「家計調査年報（貯蓄・負債編）平成23年 貯蓄・負債の概況」

貯蓄現在高階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）—平成23年—

